

親の呼び方の変化について -呼び名の変遷を見る-

渡辺俊矢

はじめに

「親」というのはたいていの場合、子どもが独り立ちする前に最も長い時間をともにする存在のひとつである。そのような「親」という存在の呼び名は、子どもの年齢によって少しずつ変化してゆくものであろう。しかし昨今、幼少期の頃から変わらず「ママ」「パパ」という呼び方をしている人が多いように思える。本実験では両親のことを「ママ」「パパ」と呼んでいる人は本当に増加しているのかについて検証する。

方法

18~21歳の男女計34人にアンケートをとり、年齢及び性別、そして母親と父親の「現在の呼び名」、「過去の呼び名」を調べた。また過去と現在で親の呼び名が異なる場合には、呼び名を変えた理由を聞いた。

今回のテーマは「ママ」「パパ」と呼ぶ人の割合の変化に注目したいのでこの結果と比較するための情報が必要である。私は、皆川昌氏が行った「大学生における親の呼び方とその選択基準について」という調査結果と比較し、「ママ」「パパ」呼びに関する変遷をたどった。

結果

表1,2 に示した通り、「過去の呼び名」に関しては「ママ」「パパ」呼びの割合は半数を越え、「現在に呼び名」に関しては半数は越えないものの、約4割を維持していることが分かった。性別に注目すると、男子のうちで「ママ」「パパ」と呼んでいる割合はともに19 %、女子のうちで同様に呼んでいる割合はともに77 %であった。また、呼び名を変えた場合その理由は何かという質問に対しては「恥ずかしくなった」という回答が多かった。

結論： 「ママ」「パパ」と呼ぶ人の割合は増加している。

表1 現在と過去の母親の呼び名				
	現在の母親の呼び名		過去の母親の呼び名	
	人数	割合（%）	人数	割合（%）
お母さん	15	44.1	11	32.4
ママ	14	41.2	21	61.8
母	1	2.9	0	0.0
母さん	1	2.9	0	0.0
母ちゃん	1	2.9	0	0.0
その他	2	5.9	2	5.9
合計	34	100.0	34	100.0

表2 現在と過去の父親呼び名				
	現在の父親の呼び名		過去の父親の呼び名	
	人数	割合（%）	人数	割合（%）
お父さん	14	41.2	11	32.4
パパ	14	41.2	19	55.9
父	1	2.9	0	0.0
父さん	1	2.9	0	0.0
父ちゃん	1	2.9	0	0.0
その他	3	8.8	4	11.8
合計	34	100.0	34	100.0

考察

この結果と、皆川昌氏の調査結果を比較する。皆川氏の調査は平成27年に崇城大学の紀要にまとめられている。皆川氏は「パパ」と呼ぶ男子学生の割合は1.4 %、女子学生の割合は3.1 %であり、「ママ」と呼ぶ男子学生の割合は1.2 %、女子学生の割合は28 %であることを示している。少なくとも9年前に行われた調査であるが、「ママ」「パパ」と呼ぶ人の割合は大幅に増加していることが分かる。

この変化には主に2つの要因があると考えられる。1つめは、この数年でジェンダーというものが世間一般にも意識され始めたことである。「男だからママパパはやめよう」という考えが薄まったことで男子学生のママパパ呼びの割合が増加したのだと考えられる。2つめは「周りもママパパと呼んでいる」ということを知る機会が増えたことである。「◎結果」でも記したが、呼び名を変える原因は「恥ずかしくなった」ことであることが多いことが分かった。しかし「周りにもママパパと呼んでいる人がいる」ということを知ったらこの「恥ずかしさ」は少し薄まるのではないだろうか。また、周りの呼び名を知るきっかけとしてはSNSなどが挙げられると考える。

。

おわりに

今回の調査から、両親のことを「ママ」「パパ」のように呼んでいる人（大学生）は約10年前と比較しても増加していることが分かった。「呼び名」のように親子の関係性も時代の流れとともに変化してゆくものなのかもしれない。

文献

皆川昌, 大学生における親の呼び方とその選択基準について, 崇城大学紀要, 第40巻, 平成27年3月, p.109~123